

令和元年度第3回富士見市いじめのない学校づくり委員会
会議録要旨

【日時】 令和2年2月14日（金） 14:00～16:00

【開催場所】 富士見市教育委員会会議室

【出欠状況】

小林	塚田	長堀	忽滑谷	発田
○	○	○	○	○

【事務局】

学校教育課長 教育相談室長 指導主事1名

【次第】

1 開 会

2 教育委員会あいさつ

3 委員長あいさつ

4 報告事項

- (1) 令和元年度 富士見市立学校におけるいじめ等の状況について
(令和元年度第2回生徒指導に関する調査結果より)

5 議 題

- (1) 長欠・不登校児童生徒の実態と今後の対応について
(2) いじめのない学校づくり子ども会議について

6 事務連絡

令和2年度の開催予定について（案）

令和2年 6月 8日（月） 14:00 富士見市教育委員会会議室

令和2年10月12日（月） 14:00 富士見市教育委員会会議室

令和3年 2月15日（月） 14:00 富士見市教育委員会会議室

7 閉 会（副委員長）

【報告事項】

- (1) 令和元年度 富士見市立学校におけるいじめ等の状況について
(令和元年度第2回生徒指導に関する調査結果より)

【委員】 新型コロナウイルスに関連するいじめが報道された。新型コロナウイルスについての「不安」が原因であろう。
「不安」があるところにいじめが起きる。学校が児童生徒にとって安全・安心な場となるように。

(不登校児童生徒が増加していることについて)

【委員】 文科省の通知からも、登校を促す指導から自分が置かれている環境へ適応できるようにする支援へと変わってきている。教育委員会、学校、家庭が共通の認識をもつ必要がある。

【委員】 保護者も子どもにどう関わったらよいか困っている。
「登校しぶり」の主訴(原因)を丁寧に聞き取ることが大切。
子どもが「頭が痛い」という場合でも、背景には病気とは別の原因があることも考えられる。

【委員】 小学校から中学校へ進学する際に不登校となり、そのきっかけが見えない場合もある。その子の過去を追っていくと、(心や体の)発達にばらつきがみられることもある。学習面、生活面での適切な支援が大切。

【議題】

- (1) 長欠・不登校児童生徒の実態と今後の対応について

【委員】 病気を理由とする30日以上欠席についても気を付ける必要がある。病気から快復した際のケアも含め丁寧な対応を。

【委員】 「教育支援シート」で不登校が心配な児童生徒の共有を図っていることはよい。小学校6年生時に不登校になってはいなくても、過去に30日以上欠席をしている場合もあるので、シートを作成する場合に気を付けるとよい。

(2) 令和2年度 いじめのない学校づくり子ども会議について

- 【事務局】 今年度の「いじめのない学校づくり子ども会議」は中学校区でグループをつくり、「いじめをなくすために、自分たちにできること」というテーマで話し合った。
実行委員の児童生徒が積極的に意見交換をし、小・中学校それぞれの実態を共有することができた。また、いじめをなくすため小・中学校が連携した取組を考えるきっかけにもなった。
- 【委員】 いじめをなくすためには、子ども同士がお互いに信頼できるような人間関係を築くことや、自分の思いを表現できることが大切。
- 【委員】 今年度の子ども会議に出席した児童生徒が、それぞれの学校で、子ども会議で得た経験を広めていってほしい。
- 【委員】 子ども一人一人が「いじめをなくす」ことを自分事として考えることが大切。
- 【委員】 来年度は、「(いじめをなくすための) 宣言を実現するために、自分たちにできること」のようなテーマで話し合ってはどうか。
今年度の実行委員がホスト役となって話し合いの進行をすることで、子どもが自分事として考えることができるのでは。また、中学生が小学校へ出向きホスト役ができるとうい。
- 【委員】 それぞれの学校でいじめをなくすための取組を行っている。より実効的な取組となるよう、各校においても、子ども会議で行った方法で話し合いを深めてもらえるとよい。